

# 漁海況月報号外

平成19年1月1日～12月31日

静岡県水産技術研究所  
(電話 054-627-1815)  
静岡県水産技術研究所伊豆分場  
(電話 0558-22-0835)

## 〔黒潮流路〕

図1に黒潮流型の区分を表1に近年の流型の経過を示した。また、図2には平成19年1～12月における月別の前半、後半の代表的な黒潮流路を示した。

潮岬以西の黒潮は、1月～2月、昨年11月に九州南東沖に形成された小蛇行が分裂しながら四国沖を通過した。2月以降、都井岬沖ではやや離岸傾向で推移し、3月は接岸傾向であった。4月下旬に都井岬南東沖に小蛇行が形成され、5月中旬に足摺岬、7月上旬に潮岬を通過した。また、5月下旬に都井岬南東沖に出現した小蛇行は、6月中旬に足摺岬、7月上旬に潮岬を通過した。8月、都井岬沖～潮岬沖では接岸傾向で推移した。

9月中旬には、都井岬沖で小蛇行が形成されたが、足摺岬沖～潮岬沖では接岸傾向が継続した。10月中旬～11月中旬、都井岬沖の小蛇行が小冷水渦に分裂しながら四国沖を東進した。

潮岬以東の黒潮は、1月前半は、遠州灘沖を直進するN型であったが、後半には伊豆諸島周辺への小蛇行の東進によりB型、C型流路となった。2月前半には小蛇行が房総沖に抜け一時D型となった。2月後半～3月前半においては、遠州灘沖にあった冷水域が東進し伊豆諸島西に北上部を持つB型となったが、その後の北上部の東進に伴い、3月後半から6月前半までC型で経過した。6月後半には、沖合の蛇行部が切り離され一時的に八丈島の北を東進するN型となったが、7月後半にはB型となり、8月～9月はC型で経過した。10月前半に遠州灘沖の冷水域の一部が伊豆諸島の東へ抜け、10月後半にはN型となった。11月に再びC型となったが、12月後半には冷水域の東進によりD型となった。

平成19年は、N型基調で経過した昨年と異なり、小蛇行の東進等による流路変化を伴いながらおおむねC型、B型で経過した。

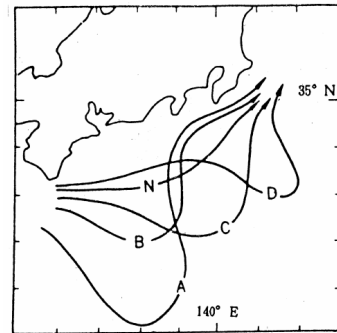


図1 黒潮流型の区分  
(海上保安庁海洋情報部より)

(資料：海洋速報(海上保安庁)・一都三県漁海況速報)

年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成元年	B C	C C	C DW	C N	N N	N N	N N	N N	N N	N DN	B A	A A
2年	A A	A A	A A	A A	A A	A A	A A	A A	A A	A AC	C C	C CD
3年	C C	C C	C C	C C	C CD	C C	C C	C C	C D	NN	N N	N N
4年	C DC	N N	N N	N N	N BD	C DN	N N	N N	N D	N N	NC	C N
5年	N N	N N	N B	B BC	C C	C C	C C	C C	C N	B C	D N	N N
6年	B C	D N	N N	C C	NN	N N	N B	BN	N N	N N	N N	N N
7年	NN	N N	N N	N B	B C	C C	D D	NN	N N	N N	N BC	C CD
8年	C D	D D	D W	D N	N N	N N	N N	N N	N N	N B	C D	D N
9年	N D	D D	C C	C CW	D ND	N D	C CNC	D W	N C	D N	N N	B C
10年	D C	N N	D N	NW	N N	NB	B B	C C	C C	N N	BC	C C
11年	CW	W WB	C C	C C	N N	N N	N N	N N	N N	N BN	B B	B B
12年	C C	CW	W WB	B BC	CW	WB	C C	C C	C C	C C	C C	CW
13年	C C	C C	CD	C C	C WN	B C	C C	C C	C WB	BC	C C	CD
14年	N N	N N	N N	N N	NB	N N	N N	N N	N N	N N	N N	N N
15年	N N	N N	N N	N D	NW	WN	B BC	D N	N N	N N	N N	N N
16年	N N	N N	N N	N N	N N	N N	N NA	A A	A A	A A	A A	A A
17年	A A	A A	A A	A A	A A	A A	C C	C C	C C	C D	DN	N N
18年	N N	N NB	C CWC	CN	N N	N N	N N	N BN	C NC	C D	DN	N N
19年	N BC	D B	B C	C C	C C	C C	N N	B C	C C	C W	N C	C D

表1 黒潮流型一覧表

\* 静岡県水産技術研究所一部改変

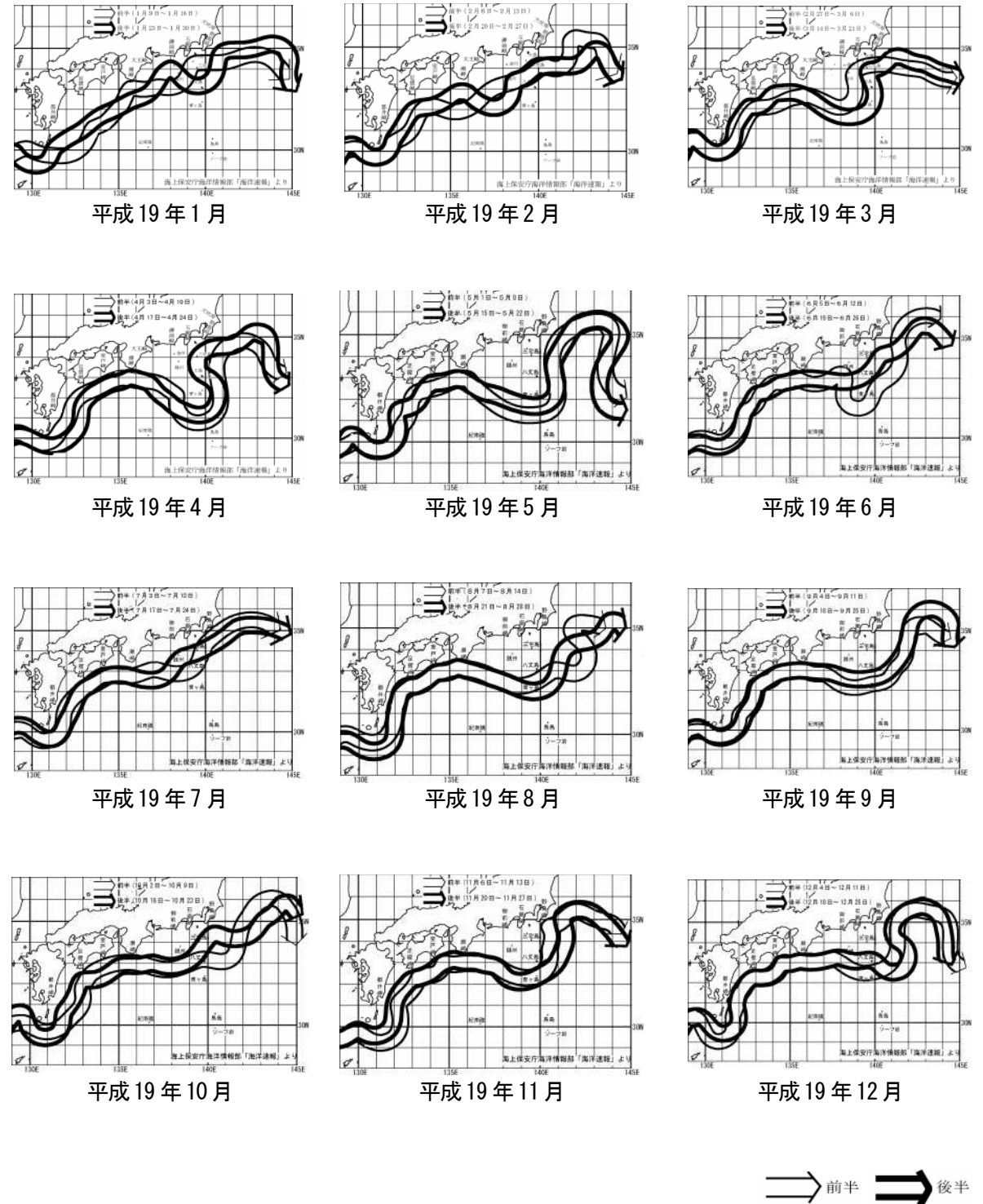
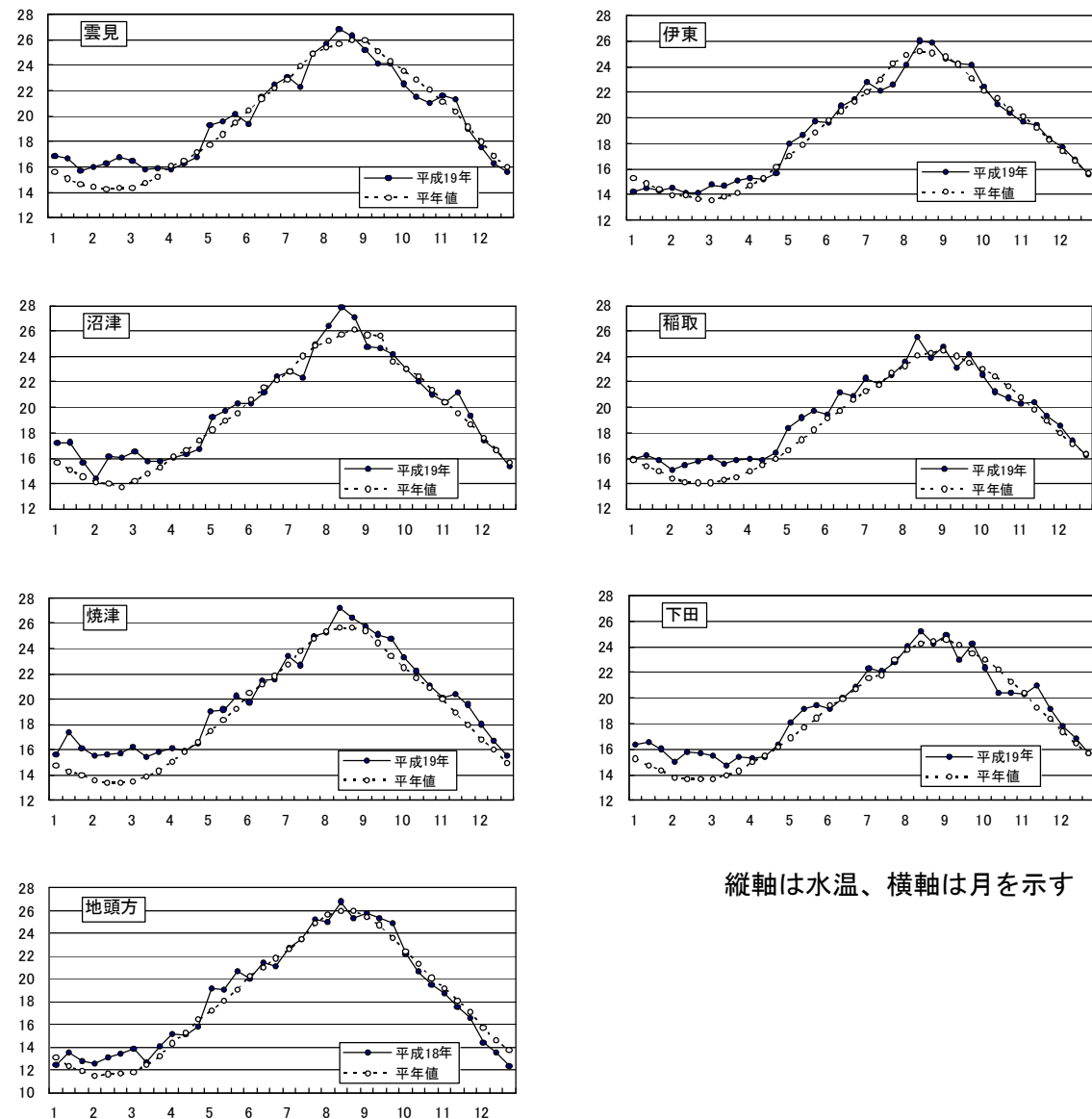


図2 平成19年1～12月の黒潮流路(海上保安庁海洋情報部「海洋速報」)

### [県下沿岸域]

図3に平成19年1～12月の沿岸水温の変化を旬別に示した。1～3月は黒潮流路がB型基調であったことや小蛇行の東進もあり黒潮からの暖水波及が顕著で、おおむねやや高め～高めであった。4月以降は、黒潮流路がC型基調となり顕著かつ継続する暖水波及がなく、おおむね平年並みで経過したが、8月中旬には相模湾、駿河湾とも湾奥部の高温化がみられ一時的にやや高め～高めとなった。



縦軸は水温、横軸は月を示す

図3 平成19年1～12月の旬別沿岸水温の変化

### [サバたもすくい棒受網]

平成19年の伊豆諸島海域におけるたもすくい漁は1月11日から開始され、漁期当初から大室出し周辺海域にマサバ主体の漁場形成がみられた。1月中旬に遠州灘沖から東進してきた冷水塊を迂回するように、2月上旬まで黒潮が一時的に離岸し、大室出しの水温は20℃台から徐々に低下したが、黒潮からの暖水波及により16℃台より下がることはなく、1夜1隻15トン前後（マサバ5～8割）の漁況で推移した。

2月中旬には、冷水塊が東に抜け、黒潮が接岸したことから、大室出し周辺の水温は17～19℃台で安定し、3月中旬まで同海域で1夜1隻15～20トン（マサバ6～8割）のまとまった漁獲が続いた。下旬には蛇行の東進により、C型流路となったが、北上部は伊豆列島線上にあり、大室出しへの暖水波及が続いた3月末までは低調ながらも漁場形成が継続した。4月には、黒潮が八丈島南まで離岸し、漁場は南側のひょうたん瀬に移ったが、漁況は低調に経過した。

4月下旬以降、黒潮の北上部が房総半島に接岸し、北部海域には暖水の波及がみられ、水温が18～20℃台になると、漁場は再度大室出し～利島に形成された。以後、6月下旬に黒潮が接岸しN型流路となるまで、大室出し周辺の水温は17～20℃台で推移し、6月上・中旬に一時的に三宅島でのゴマサバ狙いの操業がみられたものの、終了まで同海域が主漁場となり、1日1隻15トン前後（5月：マサバ3～8割、6月：マサバ2～4割）の操業が続いた。

1～6月の静岡県・千葉県・神奈川県の水揚量は、マサバが2,673トンと昨年（421トン）を大きく上回り、平成10年以来9年振りに1,000トンを超える水揚げを記録した。一方、ゴマサバの水揚量は1,328トン、1夜1隻平均漁獲量は2.9トンといずれも前年（2,209トン、9.3トン）を大きく下回ったが、このことはゴマサバの単価安もあり、マサバ狙いの操業が主体となったためと考えられた。

マサバは近年の卓越年級群である32～36cm（尾叉長）の3歳魚（2004年級群）が漁獲の大半を占めた。また、ゴマサバは28～34cmの大きさの3歳魚（2004年級群）と思われるものが漁獲の主体となった。

静岡県船による棒受網の漁場は、7月以降、8月中旬までは中ノ瀬（渡り）に、下旬からは三宅島周辺海域を中心に形成された。漁獲されたゴマサバは、21～39cmと幅広い組成であったが、9月中旬までは29～31cmにモードを持つ3歳魚（2004年級群）と思われるものが主体であった。また、8月には25cm以下の当歳魚と思われるものの加入がみられた。9月下旬からは25・26cmにモードを持つ当歳魚と思われるものの割合が増加し、10月下旬以降、漁獲物の主体を占め、30cmを超える3歳魚（2004年級群）以上の割合は低下した。

7～12月における各月の1夜1隻当りの漁獲量は、15～32トンで、前年と同様、好調に経過した。7～12月の棒受網（一部たもすくいを含む）によるサバ類の漁獲量はマサバ1.7トン（前年同期：1.4トン）、ゴマサバ3,973トンで昨年同期（4,768トン）を大きく下回った。

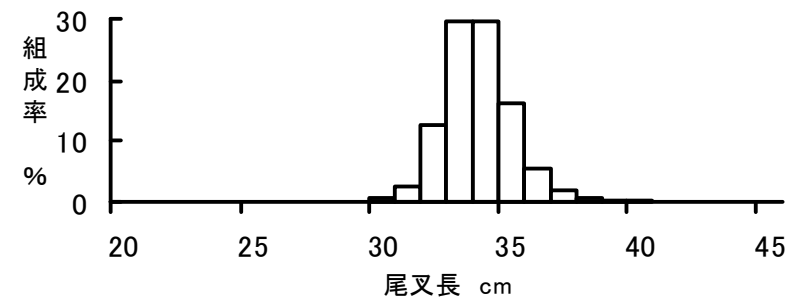


図4 平成19年1～6月のたもすくいによるマサバの尾叉長組成

### 【サクラエビ船曳網】

平成19年の春漁は、4月2日夜～6月5日夜にかけて操業が行われた。出漁日数は23日、漁獲量は1,296トンで、漁場は主に沼津沖～由比沖に形成された(昨年の出漁日数は22日、漁獲量は1,337トン)。漁獲されたサクラエビの平均体長は36.0mmで、昨年(36.8mm)より小さかった。

秋漁は11月4日夜～12月21日夜にかけて操業が行われた。出漁日数は13日、漁獲量は551トン、漁場は主に焼津沖～榛原沖に形成された(昨年の出漁日数は14日、漁獲量は491トン)。漁獲されたサクラエビは、平均体長33.6mmの当歳エビ(昨年は29.4mm)と平均体長42.1mmの1歳エビ(昨年は40.8mm)の2群で構成された。

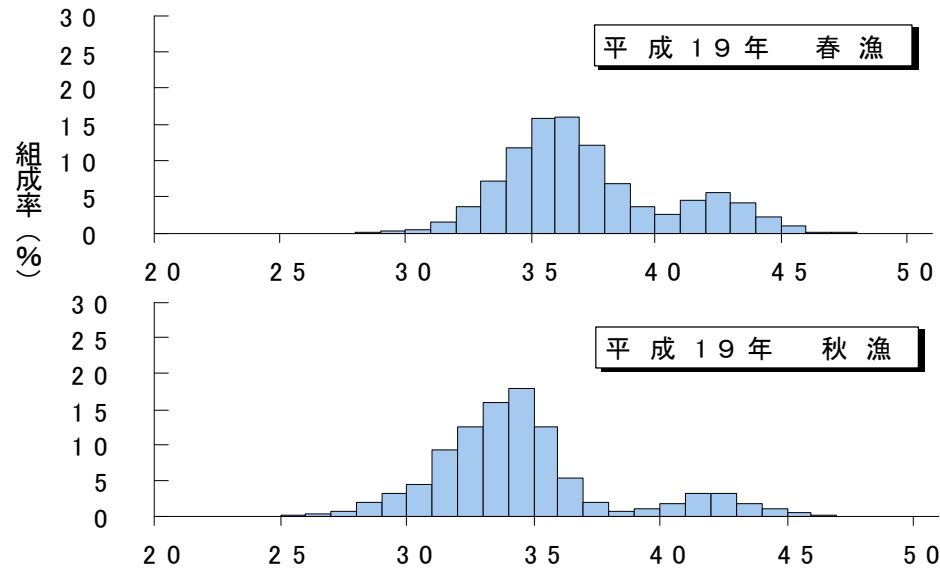


図5 平成19年春・秋漁のサクラエビ体長組成

体長(mm)

### 【竿釣近海カツオ】

#### ・水揚量と魚価

平成19年の静岡県主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海竿釣り水揚量は、1,471トンで平成18年の1,771トンを下回り、過去5か年平均(4,230トン)の37%であった。魚価は380円/kgで平成17年の370円/kgを上回った。

#### ・漁況(漁場形成と魚体)

近海竿釣り船QRYによれば、静岡県船の漁況は、おおむね下記のとおり推移した。

- 1 月 中旬から今年の操業を開始し、小笠原諸島南東海域でカツオを、伊豆諸島周辺海域でヨコワを漁獲した。
- 2 月 小笠原諸島周辺海域で特大、特特大カツオを中心に漁獲した。
- 3 月 小笠原諸島周辺海域で特大、特特大カツオを中心に漁獲した。
- 4 月 前期はハロース、スミスで、後期は海徳場でキメジ、シビコ、チャップパを中心に漁獲した。
- 5 月 33～34°N、142～143°Eで小中トンボ(カツオ混じり)を中心に漁獲した。
- 6 月 29～34°N、138～144°Eで小中トンボ、特大大中小カツオを中心に漁獲した。
- 7 月 松生場、海徳場周辺で小、極小、中カツオを中心に漁獲した。

8 月 八丈島、鳥島周辺で小、極小、中カツオを中心に漁獲した。

9 月 37～40°N145～148°Eでチン、小、極小、中、大カツオを漁獲した。

10月 34～39°N139～145°Eで小、中、大、極小カツオを漁獲した。

11月 新島から大室出し周辺海域において鳥付群により大・中・小・特大カツオを漁獲した。

年 月	水揚量 (トン)	水揚 隻数	水揚/隻 (トン)	平均単価 (円/kg)	主漁場と魚体(体長cm)
19年 1月	48	2	24.0	278	小笠原諸島南東海域
2月	157	14	11.2	525	小笠原諸島周辺(54～68)
3月	214	28	7.6	547	小笠原諸島周辺(35～68)
4月	124	27	4.6	752	ハロース、スミス、海徳場
5月	541	32	16.9	248	八丈島東海域(38～66)
6月	91	26	3.5	291	鳥島～三宅島(35～72)
7月	142	29	4.9	243	松生場、海徳場周辺(29～65)
8月	97	19	5.1	261	八丈島～鳥島(35～76)
9月	20	5	4.0	330	37～40°N145～148°E
10月	19	7	2.7	440	34～39°N139～145°E
11月	19	7	1.1	927	新島～大室出し
12月	0	0	-	-	
19年 計	1,471	559	7.1	380	
18年 計	1,771	254	7.0	370	
5か年平均	4,029	501	8.0	332	

5か年平均：平成14～18年の平均

表2 平成19年竿釣近海カツオ水揚量等(県内主要5港)

### 【まき網】

#### 1 マイワシ

本年の静浦漁港における総水揚量は3トンで、前年(22トン)の14%、平年(過去5か年平均:177トン)の1.7%と極めて低調だった。

小川港での総水揚量は126トンで、前年(208トン)の61%、平年(904トン)の14%と極めて低調だった。総水揚量に対し10月が35%と最も多く、以下7月が22%、12月が17%、6月が16%だった。

伊東港における総水揚量は28トンで、前年(3トン)の約9倍、平年(120トン)の23%と、前年を上回ったものの極めて低調だった。水揚のほとんどが9月、10月だった。

#### 2 カタクチイワシ

本年の静浦漁港における総水揚量は1,046トンで、前年(1,291トン)の81%、平年(1,156トン)の90%と、前年および平年を下回った。4～6月に水揚が集中し、うち5月、6月で総水揚量の96%を占めた。

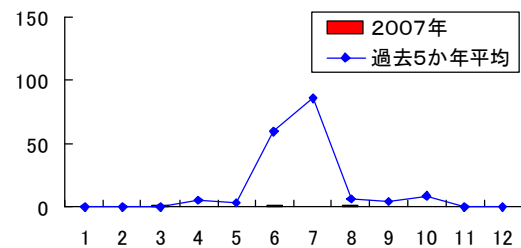


図6 静浦漁港マイワシ月別水揚量の推移

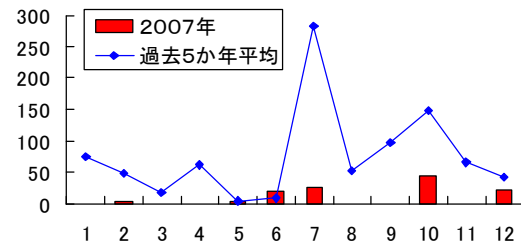


図7 小川港マイワシ月別水揚量の推移

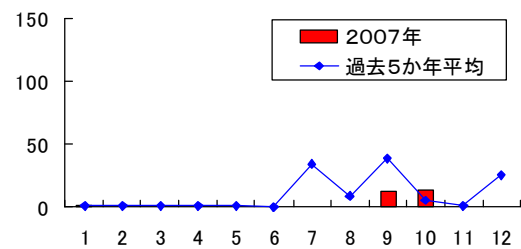


図8 伊東港マイワシ月別水揚量の推移

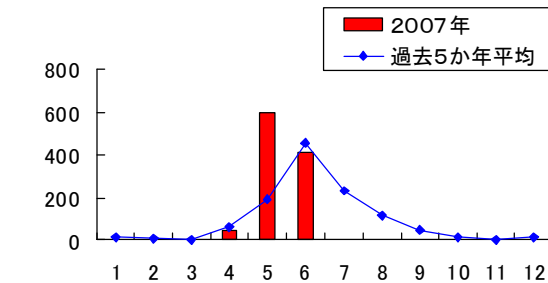


図9 静浦漁港カタクチ月別水揚量の推移

(注) 図6～9の縦軸は水揚量(トン)、横軸は水揚月

### [シラス船曳網]

平成19年シラス漁は3月21日から始まった。3～12月の主要6港(静岡、吉田、御前崎、福田、舞阪、新居)における総水揚量は7,736トンで、前年(6,449トン)の119%、平年(5,578トン)の139%と、前年および平年を上回り、特に3～6月の水揚量は5,232トンと過去20年間で2番目となった。総水揚金額は4,404,779千円で、前年(4,037,287千円)の109%、平年(4,067,965千円)の108%と、前年および平年を上回った。平均単価は569円/kgと前年(626円/kg)の91%、平年(769円/kg)の74%だった。

1日1か統当りの水揚量の推移を月別にみると、3月は300kg台(駿河湾217kg、遠州灘403kg)と解禁当初から好漁となり、4月は上旬には200kg台とやや落ち込んだが、中旬には300kg台、下旬には500kg台と上向き、月全体では389kg(駿河湾362kg、遠州灘400kg)と平年(303kg)を大きく上回った。5月に入り、上旬は400kg台と前月下旬を下回ったが、中～下旬には700～1,000kg台と上向き、月全体では793kg(駿河湾642kg、遠州灘840kg)と4月以上に平年(277kg)を大きく上回った。

6月も上旬は800kg台、中旬は500kg台と好漁が続く、下旬には300kg台と平年並みとなったものの、月全体では606kg(駿河湾504kg、遠州灘643kg)と平年(320kg)を大きく上回った。しかし、7月には一転して低調となり、上、中旬は100kg台(駿河湾62kg、遠州灘147kg)と平年の30%まで落ち込み、下旬には300kg台(駿河湾389kg、遠州灘286kg)に回復したものの、月全体では261kgと平年(430kg)を大きく下回った。8月も中旬まで200～300kg台と平年の70～80%で推移し、下旬には再び100kg台まで落ち込み平年の50%となった。9月は遠州灘では100～200kg台で引き続き低調だったが、駿河湾では中、下旬に400～500kg台と好漁となり、月全体では325kgで平年の94%、10月は254kg(駿河湾282kg、遠州灘242kg)で平年の86%と、9、10月は平年近くまで回復した。その後、

11月は100kg台(駿河湾119kg、遠州灘121kg)、12月は100kg以下(駿河湾32kg、遠州灘97kg)で、平年の70～80%と低調に推移した。

水揚量の推移を月別にみると、3月は258トンで平年同期(25トン)の約10倍、4月は1,139トンで平年同期(573トン)の約2倍、5月も2,400トンで平年同期(708トン)の3.4倍、6月には1,434トンと平年同期(821トン)の1.7倍と、6月まで平年を大きく上回った。その後、漁模様が一転して、7月には442トンで平年同期(949トン)の47%と平年を大きく下回り、8月は477トンと平年同期(632トン)の75%、9月は719トンと平年同期(849トン)の85%と平年を下回った。10月は688トンで平年同期(689トン)並みに回復したものの、11月には153トンと平年同期(249トン)の61%、12月には25トンで平年同期(81トン)の31%と平年を大きく下回った。

平均単価を月別にみると、10月は平年並み、7、8、11、12月は平年を上回ったが、3～6月及び9月は平年を下回り、特に5、6月は平年の50%前後と安値で推移した。

今漁期の特徴としては、6月までの春漁が記録的な好漁となり、7月以降は低調に推移したことがあげられる。この要因として、解禁当初の魚体が大きく、6月まで卵、稚仔の分布量が多く沿岸への補給が断続的に行われる海況条件であり、一方、7月以降は卵、稚仔の減少並びに暖水波及が弱まったためと考えられる。

(注) 平年：過去5か年平均

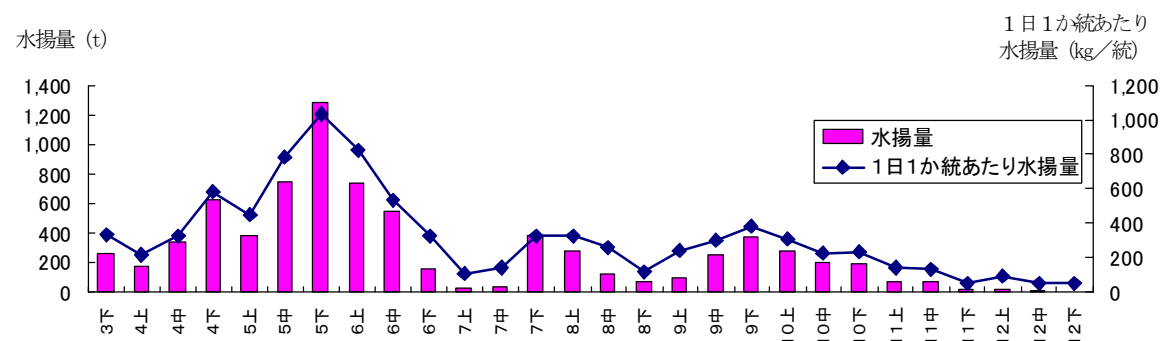


図9 平成19年主要6港旬別シラス水揚量と1日1か統当たり水揚量の推移

### [定置網]

平成19年の伊豆半島東岸大型定置網8か統(伊豆山、古網、赤石、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の漁獲量は3,841トンで、これは前年漁獲量3,220トンの119%、平年漁獲量(昭和57年～平成18年平均)3,857トンの100%であった。漁獲量を月別にみると、1～3月はマアジの多かった前年の50%前後と低調で、4～5月はカタクチイワシが好調で前年及び平年を上回り、6月も前年を下回ったものの平年を上回った。7～8月は前年を下回り9月まで平年の70%前後の漁獲が続いたが、10月にはサバ類の多獲により前年の約600%、平年の約270%と昭和57年以降で最も多く漁獲され、前年及び平年を大きく上回った。11月も少なかった前年を大きく上回ったが平年並となり、12月は前年並で平年の50%となった。最も多かったのは10月の843トンで、最も少なかったのは2月の67トンであった。

魚種別漁獲量の上位 10 種は以下の通りであった。

- 1 サバ類(さばっこを除く): 961 トン (前年の 86%、平年の 112%)
- 2 マアジ(じんだを除く): 623 トン (前年の 81%、平年の 86%)
- 3 カタクチイワシ: 462 トン (前年の 138%、平年の 148%)
- 4 マルソウダ: 245 トン (前年の 218%、平年の 127%)
- 5 スルメイカ: 234 トン (前年の 112%、平年の 161%)
- 6 ヤマトカマス: 188 トン (前年の 964%、平年の 331%)
- 7 銘柄わらさ: 113 トン (前年の 287%、平年の 209%)
- 8 さばっこ: 99 トン (前年の 14,309%、平年の 118%)
- 9 イサキ: 88 トン (前年の 160%、平年の 179%)
- 10 ウルメイワシ: 87 トン (前年の 163%、平年の 158%)

ブリは、銘柄ぶりの漁獲量は 31 トン (3,971 尾) で前年を下回り平年の半分程度であった。2 月に 550 本、3 月に 693 本、4 月に 2,401 本入網し、魚体は 3~4 歳魚 (2003~2004 年級群) 主体であった。また、銘柄わらさが 4~5 月に集中的に入網したことにより 113 トンと前年及び平年を大きく上回り、銘柄いなだの漁獲量は 46 トンと前年を下回ったが平年の 2 倍近くとなった。2007 年級群である銘柄わかしの漁獲量は銘柄いなだサイズのものも含むと考えられるが、67 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、前年及び平年を大きく上回った。

マアジは、1 月には前年及び平年を上回って漁獲されたものの、2~3 月には前年の 5%、平年の 10~20%程度ときわめて低調で、4 月には前年並となったが平年の半分程度の漁獲であった。5~6 月には前年並で平年をやや上回る漁獲に転じたが、7 月には平年を下回り、8~9 月は前年を上回り平年並の漁獲となった。10~11 月は前年を大きく上回るものの平年を下回る漁獲となり、12 月には前年及び平年を大きく下回った。漁獲サイズは 6 月までは 1 歳魚 (尾又長の中心 18~21cm) の他に 2 歳魚 (尾又長の中心 22~26cm) も多く漁獲され、7 月以降はじんだ及び成長した当歳魚中心に漁獲された。マアジじんだは 5~8 月を中心に 15.4 トン漁獲され、不振だった前年の 447%であったが平年の 34%と低調であった。

サバ類(さばっこを除く)は、年間を通じてゴマサバが主体で、3~4 月は前年及び平年の 10%以下ときわめて低調で、5~7 月は平年並の漁獲となったが好調だった前年を大きく下回った。8~9 月も平年の半分以下の漁獲であったが、10 月には 376 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、前年の 23 倍、平年の 5 倍と大きく上回った。11 月以降も前年を大きく上回り、平年並か平年を上回る漁獲が続いた。年間漁獲量は多かった前年の 42%、平年の 86%とともに下回った。マサバは 5 月に 55 トンと平年の 2 倍近く漁獲されたが多かった前年を下回り、年間では 68 トンが漁獲され、前年の 33%、平年の 109%と前年を下回り平年並の漁獲であった。2007 年級群は「さばっこ」として 10 月に 48 トン、11 月に 30 トン漁獲され、不振だった前年を大きく上回り、平年並であった。また、漁獲されたサバ類のサイズは 5~6 月は 2004 年級群中心で、マサバの尾又長のモードは 37cm、ゴマサバの尾又長のモードは 35~36cm にみられたが、9 月以降は当歳魚と思われる尾又長 26 cm にモードがある群が漁獲の中心となり、10 月以降はサバ類もさばっこも漁獲の中心サイズは同一であった。

カタクチイワシは前年同様 1~2 月に少なく 3 月まで平年の 3 分の 1 以下であったが、4~6 月を中心に漁獲され、4 月には 187 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、年間漁獲量は前年及び平年を上回った。

マルソウダは 10 月に 112 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、年間漁獲量は前年及び平年を上回った。

スルメイカは 8 及び 11~12 月を除き平年を上回る漁獲となり、3 月に 54 トンと昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、前年並で平年の 161%の漁獲があった。

ヤマトカマスは 9~11 月に集中的に漁獲され、10~11 月は昭和 57 年以降で最も多く漁獲され、年間でも 188 トンと最も多く漁獲された。

その他、イサキは前年及び平年を上回り、ウルメイワシも前年及び平年を上回った。

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは…… <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/imode/index.htm>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星 NOAA による海面の水温分布画像を見ることができます。



おしらせ

水産技術研究所のホームページでは、高精度で広範囲の海の様子が見られる

「高精度海況図」の提供を始めました。

現在は試行期間のため、更新の遅れなどが生じた場合はご了承ください。

正式発行は平成 20 年 4 月からを予定しています。

ご意見、ご要望などありましたら、下記までお知らせ下さい

水産技術研究所 054-627-1817 (資源海洋研究室、普及室)

メールアドレス [suishi@shizuokanet.ne.jp](mailto:suishi@shizuokanet.ne.jp)

